

なほ丹生曆や伊勢曆の詳細に關しては、他日、稿を新たにして發表したいと思つて居る。今なほ私の疑問として残つて居ることは、何故賀茂家がこの僻地に居を構へて曆を出したかといふことである。この點が明になれば、曆に關連した他の方面の事も、幾分もつと判明するであらうと私は考へて居る。

小遊星課を創設する

Inauguration of "Asteroid" Section

本會觀測部

近頃の本會“急報”を見る人々は、小遊星の豫報位置が屢々掲げられ、其の觀測が要求されてゐるのを知つて居られるだらう。廣瀬秀雄氏から希望あり、又、其の他にも此の問題の研究をすゝめられる人々が多い。これにより、本會觀測部では、彗星課の一部から“小遊星課”を獨立させることにし、直ちに其の活動を開始する。事務は當分の間、田上天文臺で執る。參加希望者は、所持の望遠鏡の大きさを附記して、申し入れて頂きたい。

小遊星をアマチュアたちが觀測するについては、光度の變動と、經緯度の概略を觀測することと、先づ此の二方面がある。そのうち、取り敢へず、こゝでは位置（經緯度）の概略觀測を指導する。これにも亦三つの方法がある。(1) 星野の寫眞を撮ることと、(2) 輪形測微尺で觀測することと、(3) 星野の見取り圖（スケッチ）を取ることである。このうち、寫眞にはカメラと赤道儀と特殊な熟練が必要であり、輪形測微尺觀測には良い時計が必要であつて、今までにも屢々この方法や、注意事項は書いた。小遊星の附近の星野の見取り圖を作ることは、今まで殆んど書いたことが無かつたが、これは比較的容易で、只、必要なものは口径7センチ以上の簡單な望遠鏡のみである。見取り圖から小遊星の經緯度（赤經と赤緯）を算定するには、少なくともボン星圖やバイエル・グラフ星圖が必要であるが、若し此の星圖を所持してゐなければ、田上天文臺へ其の見取り圖を送つて下されば算定してあげる。何れ、實地の觀測法や研究法は、今後天界や急報に書くつもりであるし、又、位置豫報の計算についても、追つて掲載したいと思ふ。とにかく、國內も、國外も、天文觀測者が減少しつゝある時、熱心なアマチュア諸氏によつて小遊星を確實に捕捉することは、世界の天文學への貢獻として重要視すべきものである。(1943—8—1)